

2025年度 自己推薦入試【基礎学力型】

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

12月14日実施 D日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、17ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は ～ です。 ～ の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでいいいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題 1 次の (一) (二) の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、*の付いた語句には、文末に注があります。

(一)

「ワンオペ育児」という言葉がある。これは母親が一人で、生活にかかわる何もかもをこなしながら子育てしなければならない状況を表している。確かにこんな状況では、子育てなんか楽しくないし、少子化が起こるのも当然だろう。

では、なぜこんなことになったのか？ 実は、20世紀産業社会の構造そのものが原因だと思うのだ。20世紀、とくに第二次大戦後は、工業化と都市化が進み、産業構造が変化して、農林漁業は縮小していった。人々が都市に流れるのに応じ、地方の人口は減少した。

都市での生活の中心は、そこに存在するさまざまな職業のどれかに就き、給料を稼ぐことである。職場はどこか一つの建物にある。人々はそこに集まって働くので、当然ながら職任分離となる。こうして、諸行為の A こそが人が生きる営みであったのに、いつのまにか、行為のそれぞれが、職場での「仕事」と、家庭にまかされる「家事育児」とに分断された。

職場で働くこと、そこに行くために通勤すること、職場の人間関係を回すための飲み会に参加することなどは「仕事」であり、掃除や洗濯、料理、子育てなどは、仕事とは関係なく「家庭」でやるべきこととなった。「仕事」はお金を得るための行為であり、給与の額で評価が明確に表される。一方の家事育児は、これも生きていく上では必須な行為であるにもかかわらず、基本的に「ただ」だと思われ続けてきた。【 I 】

しかし、家事をしなければ生きていけないし、働きに行くこともできない。育児をしなければ子どもは育たない。それを支えていたのが、主婦などの女性であった。高度成長期には、家事育児をこなす専業主婦という存在が定着した。【 II 】

職場でもいろいろな人間関係が築かれるが、それは家庭とは分断されているので、家事育児には寄与しない。一方、家庭で家事育児をしている妻自身には、ど

れほどの社会的つながりやサポートがあるだろうか。その多寡^{たか}で家事育児のしんどさは大きく変わる。

しかし、仕事で稼いだお金を使ってマイホームを築くというような考え方でみると、必然的に各家庭は個別に営まれることになる。そこで誰に頼るかというと、祖父母などの血縁者となろう。ところが、都市に出てきた人々は、そのような血縁者とは離れたところで暮らしているので、あまり頼りにはならない。

では、互いにサポートしあえるような近所づきあいがあるかということ、それを築くのも難しい。今や、同じマンションの隣人が何をしているのかも知らない、という状態だ。

こうして、^ア家事育児に関することは、家庭にいる女性がすべてやるべきだという生活観ができる。 **B**、高度成長期には、夫が十分な収入を持って帰れたので、専業主婦という存在は成り立った。ところが、そうではなくなると、女性も稼がねばならない。以前のままの職住分離や生活観のもとで女性も働くようになると、当然「ワンオペ」になるしかないだろう。【 III 】

こんなことになったのはごく最近のことだ。第二次大戦前といった、ほんの少しだけ昔を思い返しても、こんな暮らしではなかった。農林漁業は地元でみんなが一緒に行く生業形態であり、その地での社会関係が生活のすべてにかかわっていた。1軒ずつの家は別でも、男性も女性も、生業活動にも家事育児にもかかわり、みんなで生きていた。

もつと昔にさかのぼって、狩猟採集生活を考えてみよう。それは人類進化史の90%以上を占める生活様式だ。食料を得ること、火をおこすこと、道具を作ること、キャンプを整備すること、子どもを育てること、けがや病気を治すことなどなどには、誰もがかかわってきた。「仕事」と「家事育児」などといった区別は、狩猟採集社会では誰も考えないだろうし、子育ては母親だけでなく、みんなで行うのが当然と考えられていた。【 IV 】

文明の発展はさまざまな利点をもたらした。が、誰も意図したわけではないとはいえ、人間の生活を、お金を稼ぐ「仕事」と、生きることを支える「家事育児」

に分断してしまったのは、大失敗だったと思うのである。でも、ごく最近に出現したことなのだから、また変えることもできるに違いない。

(長谷川眞理子「時代の風」『毎日新聞』二〇一三年十一月二六日)

問一 空欄 A に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1
- ① 徹底した分業
 - ② 包括的な全体
 - ③ 整理統合
 - ④ 分離・階層化

問二 空欄 B に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 2
- ① やはり
 - ② それでも
 - ③ それゆえ
 - ④ つまり

問三 この文章の【 I 】～【 IV 】のいずれかには、次の一文が入ります。その場所として最も適切な場所を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

これが人間の生き方として持続不可能なことは、誰の目にも明らかではないか。

- 3
- ① 【 I 】
 - ② 【 II 】
 - ③ 【 III 】
 - ④ 【 IV 】

問四 傍線部ア「家事育児に関することは、家庭にいる女性がすべてやるべきだという生活観」ができた背景としてあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 4
- ① 「家事育児」は「職場」での「仕事」に比べ、その内容が多岐にわたっているが、誰もが「家庭」でできるものであること。
 - ② 職場における人間関係は、家庭とは分断されているので家事育児には奇与しないこと。
 - ③ 祖父母などの血縁者は離れたところに暮らしており、あまり頼りにならないこと。

- ④ 互いに助け合える近所つきあいを築くこともいまは必ずかしいこと。

問五 本文の内容に一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

5

- ① 夫が十分な収入を得ていた高度成長期は専業主婦が成り立った。しかし、その後に産業社会の構造そのものが変化して、まったく成り立たなくなった。
- ② 職場での「仕事」と家庭での「家事育児」に分断される以前は、子育ては母親だけでなく、みんなで行なうのが当然だと考えられていた。
- ③ 同じマンションの隣人が何をしているかも知らないという状態が、職場での「仕事」と家庭での「家事育児」の分断を加速させた。
- ④ 狩猟採集生活では、「仕事」と「家事育児」といった区別は誰も考えなかったので、文明の発展は遅れたが、みんなが協力し合う生活であった。

(二)

主体性はそもそも教えることができるのか。この点についてもぼくにはまだ確信がない。もしかしたら、そんな方法は存在しないのかもしれない。しかし、主体性を衰えさせる、主体性の^が涵養^を阻^むような（つまりネガティブに作用するような）教育のあり方はあるんじゃないかと考えている。そしてそれが日本の教育現場で展開されている。いや、日本の教育者は教え子が主体的であるよりも、むしろそうでないことを望んでいるのではないか。そう感じられるふしすら、ある。

日本の学校教育は小学校から高校卒業まで、「いかに正確に、大量に^も咀嚼し、それを正確に迅速に吐き出すか」という点に主眼を置いて行ってきた。（中略）ターゲットとする教育項目を正確に「そのまま」飲み込み、「そのまま」吐き出すことができる生徒・学生は優秀とされ、正確に飲み込めない、あるいは正確に吐き出せない生徒・学生の能力は劣つたものと評価される。

正確に素早く飲み込み、正確に素早く吐き出す。鵜飼^{うかひ}いの鵜のようなものだ。

この点は、以前話題になった「ゆとり」教育か「詰め込み」教育かという議論とは関係ない。「ゆとり」教育ではその咀嚼の絶対量が少なく、「詰め込み」教育では A が多い。それだけのことだ。

確かに、近年「自ら学び、自ら考える」とか「個性を生かす」というキーワードが学習指導要領にはちりばめられるようになり、「進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成する」と「主体性」という言葉そのものが使われている。「主体性のある日本人」というキーワードは小中高のいずれの「学習指導要領」にも見られる（平成二〇年告示、一四年施行、第一章 総則、第一 教育課程編成の一般方針の2）。

しかし、（中略）日本の学校教育における「自ら考える」とか「主体性」というのは単に誘導され、あらかじめ与えられた教育を教員が授業で押し付けるのか、「自主的な学習」（self directed learning）で自ら獲得した（ように見える）ものかの違いに過ぎない。つまりはアプローチの違いに過ぎない。

なぜかという、それが教師主導であつても、生徒主導であつても、「正しい」

答えはあらかじめ用意されているからである。

あらかじめゴールは決まっている。「正しい」答えは用意されている。それを教師が教えてきたのが旧来の授業、「自主的に」学んでいくのが近年の授業である。どちらも B は同じである。

正解はデフォルトで用意されており、そこには揺らぎや迷いはない。だから、国語においても、数学においても、英語においても、理科においても、そのデフォルトで与えられた教育項目をいかに迅速に、大量に、正確に「そのまま」咀嚼し、そして適宜これを迅速に、大量に、正確に吐き出すかが大切となる。結局この点では何も変わっていない。

そして、その大量に正確に咀嚼して嘔吐する能力の最大の発動機会は、もちろん大学受験である。大量正確な咀嚼、嘔吐が最も要求される機会である。日本において社会人の評価の大きな基盤は「どの大学に入学したか」である。大学受験は（程度の差はあるけれど）今も昔も我々日本人にとっての重大事なのだ。つまり、日本の社会人は大量正確な咀嚼、嘔吐の能力の多寡をととても重要視しているのである。

大量咀嚼、大量嘔吐の能力に「主体性」は必要ない。いや、むしろ主体性が足枷になってしまう可能性が高い。

主体的に学ぶとは、自らが自分の意志で学ぶことである。思考停止に陥ることなく、「ほんとうにそうだろうか」と前提を疑い続け、考え続ける態度で学ぶことである。したがって、そこには誤謬が伴わなければならない。なぜなら、思考を重ねるとは試行錯誤を重ねることであり、試行の果てには必ず「誤謬」があるからである。ああでもなく、こうでもなく、と試行錯誤を繰り返し、誤謬を重ねながら、正解の見えない正解を模索していくのが、主体的に学ぶということだからである。少なくとも、ぼくはそう思う。

大量咀嚼、大量嘔吐の能力に「誤謬」は必要ない。むしろ邪魔なだけである。効率良く、手取り早く、正解に直行することこそ大量咀嚼、大量嘔吐能力涵養の一番の早道である。

「効率」。この価値をもっとも重視した国がアメリカであった。それを（無批判＝思考停止状態で）模倣してきたのが日本であった。

だから、日本の教育においてはできるだけ迷いがなく、まっすぐに、間違いを回避し、試行錯誤もないままに「正解」に飛びつくことのできる人物の方が優れていると評価される。日本社会全体が効率を最優先事項とし、それを国是として進んできたのである。少なくとも3・11、東日本大震災以前はそうであった。

教育方針においてもそれが反映されないわけがない。この「効率重視社会」が福島第一原発の事故の遠因であると主張したのは村上春樹氏である（二〇一一年六月九日スピーチより）。ばくも彼の意見に同意する（もちろん、遠因の全てではないとも思うが）。

数学の $0.33333\dots \times 3$ は1ですよ、と教えられて、「はい、そうですか」とすぐに納得し、飲み込む生徒は優秀である。「そんなの納得いかない」と逡巡し続ける生徒は愚鈍と（は言われなくても、より「政治的に正しい」言葉を用いて、しかし実際には同じ意味で）評価される。自主的な、個性的な、主体的な、とスローガンで謳っていても、 $0.33333\dots \times 3$ がなぜ1なのかを何カ月も考え続けるような生徒は決して教室で評価されない。「そこはそういうものだと思っておけよ」と言いくるめられておしまいである。個性を生かすと言いながらも、現実には、こういう「かわいくない」生徒が日本の学校では評価される可能性はとても小さい。もちろん、このような性向は受験では有利に働かず、むしろ裏目にでてしまう。

（中略）

このように、日本ではいくら学習指導要領が「自ら学び、自ら考える」とか「個性を生かす」とのたまっても、現実には「個性」が生かされることはない。日本の教師は等質な*アウトカムを設定し、皆が同じようにあることを希求する。文部科学省も同じであり、子どもの親の多くも同じである。彼らの意見は食い違っても多いが、その点では見事に一致している。彼らは子どもたちが「主体的に」学ぶのを、本心では望んでいないのである。効率が阻害されるからだ。

（岩田健太郎『主体性は教えられるか』）

[注] *1 涵養：徐々に養い育てること。

*2 デフォルト：ここでは、あらかじめ設定されていること。

*3 多寡：多いか少ないか。

*4 誤謬：あやまり。

*5 逡巡：決心がつかず、ぐずぐずとためらうことだが、ここではあれこれと考え続けることの意味で使われている。

*6 アウトカム：ここでは、期待される成果のこと。

問一 空欄 A に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 6 ① 容量 ② 収量 ③ 重量 ④ 総量

問二 空欄 B に入る語句として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 7 ① 目的地 ② 方法 ③ 通過点 ④ スタート

問三 傍線部ア「揺らぎや迷いはない」とありますが、その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 8 ① 教えることに対する不安や躊躇がないこと。
② 正しい答えは一つで他の正解はないこと。
③ 学ぶことに対する不安や躊躇がないこと。
④ 答えに正解といえる正解がないこと。

問四 傍線部イ「何も変わっていない」とありますが、この「変わっていない」ものの説明としてあてはまらないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 9 ① あらかじめ正しい答えが用意されていること。
② 与えられた教育項目を、迅速、大量、正確に理解すること。
③ 与えられた教育項目を、迅速、大量、正確に出力すること。
④ 教師主導で学ぶのか、それとも生徒主導で学ぶのかということ。

問五 本文の内容と一致しないものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

10

- ① 日本で大量咀嚼・大量嘔吐能力が最も問われる機会は大学受験であり、社会人はどの大学に入学したかで評価されるので、日本の社会では大量咀嚼・大量嘔吐能力が非常に重要視されていることになる。
- ② 日本において大量咀嚼・大量嘔吐の能力が求められるようになったのは、効率を重視したアメリカを無批判で模倣したためであり、それが教育方針にも反映されたからである。
- ③ 日本では、「自主的に」、「主体的に」とスローガンで謳っていても、教師も、文部科学省も、子どもの親の多くも、他者の評価を恐れるがゆえに、子どもたちが主体的に学ぶことを望んでいない。
- ④ 日本では、自らの意思で前提を疑い、試行錯誤を重ねて正解のない答えを模索する人物より、間違いを回避し、まっすぐ正解にたどり着ける人物の方が評価される。

問題Ⅱ 次の各問について、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の生き物の名を用いた慣用句の中で、□に入る語が異なるものはどれですか。

- 11
- ① 京都観光といえば、□も杓子も清水寺に行く。
 - ② 彼は□の額ほどの土地を借りて家庭菜園を楽しんでいる。
 - ③ 先生の前では□をかぶっていたのでだまされた。
 - ④ 京町家は□の寢床と呼ばれるように、間口は狭いが奥行きがある。

問二 次の文中の四字熟語の空欄に入る語として、最も適切なものはどれですか。

- 12
- 理念や信条に照らして行動するのではなく、何事も是々□々で動く。
- ① 非 ② 否 ③ 比 ④ 彼

問三 次の慣用句やことわざの意味として、最も適切なものはどれですか。

- 13
- 花をもたせる
- ① 相手をおだてていい気分させる。
 - ② 相手に名誉ある仕事を任せる。
 - ③ 相手を立てて名誉や功績を讃える。
 - ④ 相手に過度な贈り物をする。

- 14
- 船頭多くして船山にのぼる
- ① どんなにすぐれた人が多く集まっても、時には間違えること。
 - ② 一人では思いつかない知恵も、多くの人が集まれば思い浮かぶこと。
 - ③ 指図する人が多くてまとまらず、物事が見当違いの方へ進むこと。
 - ④ 専門外の人でも、多く集まればできないことはないこと。

問四 次の【 】内のようなとき、最も適切な敬語表現はどれですか。

【学生が先生にレポートを提出するとき】

- 15
- ① 「レポートを書きましたので、読んでいただけますか」
 - ② 「レポートを書きましたので、お読みください」
 - ③ 「レポートを書きましたので、読んでもらっていいですか」
 - ④ 「レポートを書きましたので、読んでください」

問五 次のうち、対義語の組み合わせでないものはどれですか。

- 16
- ① 乾燥—湿潤 ② 濃厚—希薄
 - ③ 冷遇—厚遇 ④ 肯定—長認

問六 次のうち、二字ともに音読みの熟語でないものはどれですか。

- 17
- ① 台所 ② 同志 ③ 習字 ④ 趣旨

問七 次の熟語のうち、上と下の漢字が示す意味の関係が他と異なるものはどれですか。

- 18
- ① 自嘲 ② 普及 ③ 追加 ④ 不振

問題Ⅲ 次の(一)(二)の、枠内の文章は順不同に並んでいます。論旨の通る最も適切な順序を、後の①～④の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

(二)

ア 戻り橋という名前がどうしてできたのかは不明だが、この風変わりな名称の由来にはひとつの伝説がある。いまでいえば京都大学総長といったところであろうが、文章博士であった三善清行(八四七―九一八)が死去したとき、その報せをきいて子の浄蔵法師はいそいで京都に戻る。父の死に目にあえなかったが、戻る途中、この橋のうえで葬列に出会う。そこで一心に折念したところ、瞬時父が蘇生した。そこで清行が冥界から戻ってきた橋なので、戻り橋という名ができたという。

イ 堀川は、川はばが四丈、すなわち約十二メートルであった。むろん一応の基準として川はばが決められていただけだから、場所によって狭いところや広いところがあった。平安京の南北をつらぬく川だから、そのままでは東西の交通を遮断してしまうことになる。東西の大路・小路とまじわる各所に橋が架けられたはずだが、その具体的なありさまはまるでわからない。

ウ したがって、平安京には当初から七百もの大小の橋があったということになるが、その時代の伝統を引き継いでいることがわかっているのは、一条戻り橋ただ一つである。橋の長さは六、七メートルと短くなっているが、その位置は動いておらず、まぎれもなく平安建都一二〇〇年の歴史と文化をいまに伝える史跡なのだ。

エ ちなみに、平安京にもつけられた橋は、七百箇所ほどだったという記録がある。橋だらけといった状況が想像されるが、暗渠もないわけではないが、大部分はむき出しの川・溝そのままだから、橋がなければ通行ができない。いまでいえば小さな溝程度のものにも簡単な橋が架けられていたはずで、それらを入れた数が約七百箇所ということになる。当然木造の橋だから、時期がたてばくさってくるし、メンテナンスがたいへんだったろうと思うが、活力ある都市として交通手段の維持は最大の課題だから、手

厚い管理がされていた。

オ 一条戻り橋は、平安京の一条大路と、堀川が交差するところに架けられた橋である。平安京内には雨水や下水などの排水溝の役目をはたすために、いくつもの川が流れていた。しかし川として把握された京内のそれは、わずかに堀川ひとつだった。

(井上満郎「平安京史跡探訪3 一条戻り橋」)

19

- ① イ ↓ エ ↓ ウ ↓ ア ↓ オ
- ② オ ↓ ア ↓ イ ↓ エ ↓ ウ
- ③ イ ↓ ウ ↓ エ ↓ オ ↓ ア
- ④ オ ↓ イ ↓ エ ↓ ウ ↓ ア

(二)

「ご当地キャラクター、ご当地グルメ、ご当地アイドルなど……昨今の世の中には「御当地」があふれている。

ア 明治維新を迎えた後、新聞紙上で確認する限り江戸・東京を指す「御当地」は明治二〇年代ころには姿を消す。現代のような意味で「御当地」が新聞紙面に登場するのは、戦後一九六〇年代に入ってからである。江戸時代から一五〇年を過ぎて、現代では自分たちの出身地や縁のある地域がそれぞれの「御当地」として親しまれているといえるだろう。

イ ところが、江戸時代の「御当地」は意味が異なる。前述の意味で使う場合もあるが、史料に出てくる「御当地」は多くの場合「江戸」を指す。

ウ これらは、その地域の特産品や文化、観光資源などをアピールし地域振興を図る目的で設定される。この時、「御当地」には「他の土地の人が相手の住む土地へ行ったとき、相手を敬ってその土地をいう語」(『日本国語大辞典』)といった程度の意味がある。

エ 幕末の政治状況に対応するため上落^{*1}した十四代將軍徳川家茂^{いえもち}は、慶応元年（一八六五）閏五月から翌年七月に死去するまで大坂城を拠点にした。この時、先の説明に従えば大坂が「御当地」となるはずである。ところが、同時期に幕府から出された觸^{ふれ}を見ると大坂は「当地」とされ、あくまで「御当地」は江戸だとわかる。幕末の政治状況のなか、大坂はじめ畿内^{きない}の重要性が高まることは間違いないが、あくまで將軍の拠点、すなわち「御当地」は江戸だったのである。

オ 例えば、「当四月日光山為幣使園宰相中將下向、御当地通行之砌、私方え立寄候而も不苦儀可有御座哉」（『甲子夜話』五、東洋文庫、意識：今年^{ことし}の四月日光例幣使^{にこうれいへいし}である園宰相中將^{そのおとしよりのちゅうしやう}が江戸を通行する時、私（松浦静山^{まつらせいざん}）の元へ立ち寄ってもよろしいでしょうか）といった具合である。ある一地方を指す「当地」という言葉に、接頭語の「御」が付くことで尊敬の意味が付き、將軍の拠点すなわち「江戸」となるわけである。では、將軍が江戸を離れば「御当地」も動くのだろうか。

（篠崎祐太「日常語のなかの歴史30 ごとうち【御当地】」）

〔注〕 *1 上落…都にのぼること。ここでは京都に行くこと。

20

- ① イ ↓ エ ↓ オ ↓ ア ↓ ウ
- ② イ ↓ オ ↓ エ ↓ ア ↓ ウ
- ③ ウ ↓ イ ↓ オ ↓ エ ↓ ア
- ④ ウ ↓ イ ↓ エ ↓ オ ↓ ア

問題Ⅳ 次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次はある作品の冒頭です。この作品はどれですか。

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老をむかふるものは、日々旅にして旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。

- 21 ① 平家物語 ② 枕草子 ③ 方丈記 ④ 奥の細道

問二 次の作品名と成立の時代の組み合わせのうち、正しくないものはどれですか。

- 22 ① 万葉集―平安時代 ② 竹取物語―平安時代
③ 更級日記―平安時代 ④ 徒然草―鎌倉時代

問三 次はある作品の冒頭です。この作品はどれですか。

私はその人を常に先生と呼んでいた。だからここでもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を憚る遠慮というよりも、その方が私にとって自然だからである。私はその人の記憶を呼び起すことに、すぐ「先生」といいたくなる。筆を執っても心持は同じ事である。よそよそしい頭文字などとはとても使う気にならない。

- 23 ① 草枕 ② こころ ③ 門 ④ それから

問四 次の作品のうち、芥川龍之介の作品でないものはどれですか。

- 24 ① 羅生門 ② 刺青 ③ 鼻 ④ 芋粥

問五 次の説明にあてはまる作品はどれですか。

日本からベルリンへ派遣された主人公・豊太郎が、踊り子の女性エリスと恋に落ちるが、豊太郎の帰国によって破綻する恋を描いた作品。

- 25 ① 青年 ② 舞姫 ③ 普請中 ④ 高瀬舟

問題Ⅴ 次の各問いについて、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次のA～Dの各群の①～④のうち、傍線部の漢字の読みが正しいものほどれですか。

- 26 A
- ① 長年、市井(しない)で社会運動に携わる。
 - ② 秋になってようやく平癒(へいい)する。
 - ③ 何とも凡庸(ぼんよう)な考え方にうんざりする。
 - ④ 村の老翁(ろうおう)にお会いする。
- 27 B
- ① 些細(しさい)な問題に苦勞する。
 - ② 彼は夭折(ようせつ)の小説家である。
 - ③ 学歴を詐称(さつしょう)して処分される。
 - ④ 人情の機微(きち)を描いた小説。
- 28 C
- ① 金銅の仏像を鑄造(いぞう)する。
 - ② 遊説(ゆうぜい)中の国会議員を見に行く。
 - ③ 両者は見解を異(い)にする。
 - ④ 法案の骨子(こつし)をまとめる。
- 29 D
- ① 彼の恭(うやうや)しい態度に感じ入る。
 - ② 文脈をしっかりと捉(ふま)えて内容を理解する。
 - ③ バイトばかりして学業を疎(おろ)かにする。
 - ④ 鴨川の河辺で昔の思い出に浸(ふけ)る。

問二 次のア～エの傍線部と同じ漢字を含むものはどれですか。

- 30 ア コイに足を踏んでしまったわけではない。
- ① コキョウを懐かしく思う。
 - ② 有力なショウコを集める。
 - ③ 山中でゴドクな一夜を過ごす。
 - ④ コダイな表現ばかりが目立つ。

31

イ 不正をカンカするわけにはいかない。

- ① カセンのトラブルで電車が遅れる。
- ② 自分のカゴを振り返る。
- ③ カダンな処置を下す。
- ④ カコンを残す結末。

32

ウ その理由はカイモク見当がつかない。

- ① その可能性はカイクムだ。
- ② 憲法カイセイに反対する。
- ③ 疑問がヒヨウカイする。
- ④ 隣国とキョウカイを接する。

33

エ 彼女は刀剣にゾウケイが深い。

- ① 長年のケイケンを活かした采配。
- ② ケイシキ的な手続きを済ませる。
- ③ 美しいコウケイが展開する。
- ④ 寺社にサンケイする。

